

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
KCI1-416-33-0	2019第3ターム	教養教育(A6230)	1	1	金曜5限
科目名(講義題目)			担当教員		
現代世界の形成と課題(核兵器の歴史と未来 1—小さな発見から爆弾投下まで—)			三澤純		
学修成果とその割合					
豊かな教養 ……30% 創造的な知性 ……30% グローバルな視野 ……30% 汎用的な知力 ……10%					
授業の形態	講義				
授業の方法	対面授業				
授業の目的	核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語る事が出来るようになることを目指します。				
到達目標	①原爆の開発過程を説明できる。 ②原爆の開発と第二次世界大戦中の国際政治との関連性を説明できる。 ③原爆投下地点の選定理由を説明できる。				
授業の概要	<p>2017年、国連で122ヶ国が賛成して、核兵器禁止条約が採択されました。同年のノーベル平和賞は、この条約採択のために、世界各国の様々な団体や個人をまとめたNGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)に贈られました。</p> <p>しかし2019年1月、人類絶滅までの残り時間を示す「世界終末時計」は、昨年のまま、「残り2分」と発表されました。この背景には、核保有国が核兵器禁止条約を「非現実的だ」と決めつけ、加盟していない状況があります。世界で唯一の戦争被爆国である日本もまた核兵器禁止条約に反対している国の一つです。核兵器禁止条約は、核を「非人道的な絶対悪」とみる素朴な人間の感覚を出発点としています。そうした中、このような日本政府の態度は、果たして国際社会で受け入れられるものでしょうか？</p> <p>そもそも広島・長崎への原爆投下から、既に73年が経過し、しかも核廃絶の世論が地球規模の広がりを見せているにもかかわらず、なぜ今日の地球上には、人類を幾たびも絶命させうる大量の核兵器が存在しているのでしょうか？本講義では、核開発と核被害の歴史を振り返りながら、核兵器廃絶への道を展望することにします。</p>				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		核分裂発見の人類史的意味	核分裂現象発見の歴史的意思について考える。		
2		物理学者たちの苦悩と責任	核分裂発見に関わった物理学者たちの苦悩を浮き彫りにするとともに、彼らの関に課についても考える。		
3		イギリスからアメリカへ	核兵器開発の最前線が、イギリスからアメリカへ移ったことの歴史的意思を考える。		
4		マンハッタン計画の展開	マンハッタン計画の展開過程を詳述する。		
5		原爆対日投下策の決定過程 1	原爆を日本に投下するまでの政治過程を詳細に検討する。		
6		原爆対日投下策の決定過程 2	原爆を日本に投下するまでの政治過程を詳細に検討する。		
7		原爆投下目標都市の選定	日本における原爆投下目標都市が絞り込まれていく過程を分析する。		
8		1945年8月6日と8月9日	原爆投下の瞬間を、被爆者の手記から再現する。		
テキスト	なし。毎回、レジュメと資料プリントを配布する。				
参考文献	西島有厚『原爆はなぜ投下されたか』(青木書店、1968年) 荒井信一『原爆投下への道』(東京大学出版会、1985年) こうの史代『夕風の街 桜の国』(双葉社、2004年) 山口彊『ヒロシマ・ナガサキ 二重被爆』(朝日文庫、2009年)				
履修条件	本講義は、第4ターム・金曜・5限で開講する「核兵器の歴史と未来2」と連動しています。本講義の受講生は、できるだけ「核兵器の歴史と未来2」も受講するようにしてください。				
評価方法・基準	学期末試験(80%)と開講期間中に実施する2回のレポート(20%)とを総合的に判断して評価します。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト(講義中にプリントを配布する。)				
実務経験を活かした授業	非該当				